

# 3. 今後の展開について

# 有効活用に関する今後の展開

これまで

河口水門周辺有効活用方策検討協議会

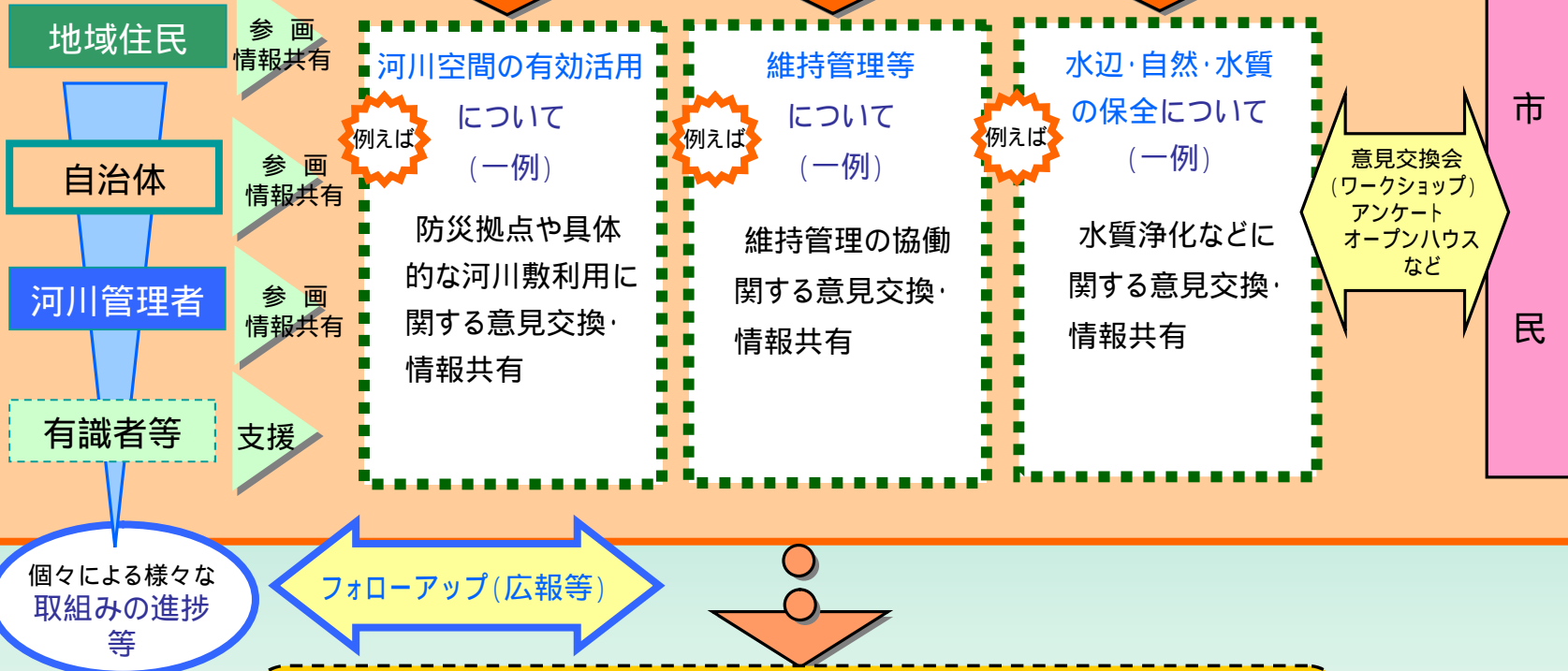
河口水門周辺有効活用方策

有効活用方策を受けた 発展的な展開へ

今後は…

有効活用方策（将来像 + アクションプラン）を踏まえた、**着実な取組み**

今後の展開（一例）



# 塩水導入実験計画(案)に対する意見概要(協議会・地元説明会)

## 農業者の立場での懸案事項

1	祇園用水等からの用水供給が十分でなく、 <b>百間川の淡水を農業用水として利用している実態</b> がある。百間川改修前には、中川用水の流末が海吉・桑野地区まで届いており用水が供給されていたが、改修に伴って廃止された経緯がある。 その代替水源として、沖元樋門から取水、海吉揚水機場から取水
2	<b>非かんがい期</b> と言っても、 <b>野菜栽培に利用</b> している。
3	農家にとって、デメリットしかなく、 <b>メリットが見当たらない。</b>
4	干拓地では、永年に亘って塩害に悩まされてきた歴史があり、再び塩水導入と言うことには <b>強い抵抗感</b> がある。
5	汽水域化していた時代には、風が吹くと塩分の飛散があり、 <b>作物に被害</b> が出た。塩水導入により同様の事態が起こることが危惧される。
6	自然災害ならば農業共済が受けられるが、人為災害では何らの補償も受けられない。 <b>補償問題をクリア</b> しないと話し合いにならない。
7	<b>他の方法で水質・底質浄化</b> をすれば良い。
8	<b>他の場所で安全性を確認した上</b> で判断する。
9	<b>安全な実験方法</b> を十分検討して欲しい。
10	旭川や児島湾の水質を見ると、目指すような <b>水質・底質改善が可能なのか疑問</b> である。
11	将来、汽水域化するまで塩水を導入すると、塩害が必至である。
12	百間川と利根川とでは、歴史や背景が異なるので、比較対象はできない。

## 漁業者の立場での懸案事項

1	百間川河口部は、かつては汽水域であり、魚介類の漁獲により生計が立てられていた。
2	今や、 <b>河口部の汚濁</b> が進み、魚介類には商品価値がない。
3	<b>早期に塩水導入</b> などにより水質・底質浄化につながる汽水域を復元して欲しい。
4	ただし、塩水導入のタイミングや開度など <b>具体的な方法については、海域への負荷も考慮した検討が必要</b> である。
5	今のままで放置すれば、灘崎の野菜栽培が陥ったように、いずれ農業にも使えない(悪臭・病原菌)汚濁水となって、農作物の商品価値が低下するのではないか。
6	早期に <b>農業と漁業の折り合い点</b> を見つけ出したい。

懸案事項を踏まえ、検討すべき事項

# 今後検討すべき事項

## 懸案事項を踏まえ、検討すべき事項

### 周辺状況など配慮すべき現況に関する事項

#### 周辺環境等現況の把握

例えば

- ・ 周辺の各種生活環境、生産活動等
- ・ 地域の歴史性や特性の再整理
- ・ 地下水の状況等土地や水の特性

など

### 検討する上で精査すべき事項

#### 水質・底質改善の代替手法

例えば

- 各種安全対策方法
- 風による塩分の飛散
- 年間を通じた水質・底質の状況
- 水門開放による流況等
- 塩水遡上対策

など

地域との  
情報共有も図りつつ

河口水門周辺の環境・水質・底質の改善に向けた継続的な取組みへ